

第 35 回 津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会 報告

日 時：2014 年 1 月 27 日（月）18：30～

場 所：津市まん中こども館ミーティングルーム

<参加者>（敬称略）

中村 潔（津市人権擁護委員協議会）、石山佳秀（NPO 法人フリースクール三重シューレ）、堀本浩史（すばる児童館）、増田和正（津市人権・同和教育研究協議会）、小池啓子（三重県ユニセフ協会）、千々岩 研、伊藤英明（津市人権課）、永合哲也（津市教育委員会事務局）、丹羽敬二（津市こども総合支援室）、大野維佐子（〃）、今田浩介（〃）、竹村 浩（津子ども NPO センター）、野口寛子（〃）、杉山静子（〃）、谷口美子（〃）、山口久美子（〃）、山下恵子（〃）、浅原直美（〃）、川喜田ひろ美（〃）

進行：大野

●第 34 回市民委員会(2013 年 12 月 13 日)報告

竹村事務局長より報告

- ・条例づくりが 3 年目になるが、庁内ですすんでいないこと。
- ・前市長から引き継いでいるが、今の施策をするにあたって何故必要なのか詰められていない。
- ・何故条例が必要なのか、今の現実に行われている施策事業を照らして進めていく。

●前回の市民委員会の方向を受け、1 月 14 日のコア会議でこれからの市民委員会の取り組みについて考えてみた。今の施策、事業をまとめるということになった。

○上記の報告を受けて

- ・行政のトップを動かすのは難しい。
- ・私たちの知っていることにも偏りがある。まずは知ることから。
- ・私たちの考える施策の基になるもの・・・今の子どもの状況を基に 4 つのグループに分かれて考えたこと。
- ・施策、事業を検証してみることは大事だが、子どもの権利条例はすべて施策にはならない。施策が優先してはおかしのものになってしまう。施策を補完することでもイコールになることでもない。自ら否定するようなものになってはいけない。
- ・市長は反対しているわけではない。必要性があれば作っていいと言っている。
- ・市長が腑に落ちないということは、どう説明しているのか（何回も説明している）
- ・この後に及んで明らかになった。直接のアプローチが必要だったのでは。

○大野さんより津市総合計画（後期基本計画）にのっとって行っている事業について説明。

- ・「津市総合計画 後期基本計画」と「津市次世代育成行動計画 後期計画」について、改めて位置づけと関連がどうなっているのか議論の焦点になる。
- ・「津市総合計画 後期基本計画」は現市長、「津市次世代育成行動計画 後期計画」は前市長のもとに作成されたものであること…継承すると謳われているが…どうなのか。
- ・「津市次世代育成行動計画 後期計画」P61 に子どもの権利条例を制定すると書いてある。平成 22－26 年度となっているが総括をどうするのか…困るのは行政では。
- ・平成 26 年度に作ることになっていることを市長に言ってみては。

- ・子ども委員会と市長、市民委員会と市長とか考えられないか。
- ・どこまで説明してもらっているのかわからない。

○いろいろと意見や疑問などが出されたが、子ども総合支援室として即答できないこともあったので、今日のところは持ち帰っていただくことになった。

☆子ども委員会チームより報告

- ・子ども委員会チーム会議 12月16日と1月8日の報告がされた。
- ・子ども委員会 12月22日と1月25日の報告が、別資料と模造紙を参照して報告された。市民員会の現状と方向について話した。子ども委員会としての骨子づくりには至っていない。公園づくりでは、わんぱーくについて子どもたちの意見を出してみようということで話し合った。トークでは、今まで将来のこと、職業、進路について話し合いをしたが、次回からはひとりの子が出してもらってそのことで話し合う。

※げいのうわんぱーく（公園）づくりについて

資料をもとに説明された。1月31日までに、各団体からの具体的な意見や考えを集めている。

●次回日程

- ・第36回市民委員会 2014年2月21日（金）18：30～ 津市まん中こども館
- ・子ども委員会㊟ 2014年2月22日（土）13：30～15：30 津市まん中こども館
- ・コア会議 2014年2月3日（月）16：00～ 津市まん中こども館